

ま え が き

大分市は、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置し、周辺部を高崎山、九六位山、霊山、鎧ヶ岳、樅木山などの山々が連なり、市域の半分を森林が占めるなど豊かな緑に恵まれております。これらの山々を縫うように県下の二大河川である大野川と大分川が南北に貫流しながら別府湾に注いでおります。その下流部には大分平野を形成しており、海岸部においては、北部沿岸海域は水深が深く、東部海岸は豊予海峡に面したリアス式海岸で天然の良港となっております。

市域は東西50.8km、南北24.4km、面積502.39km²と九州でも有数の広い市となっており、気象は瀬戸内海気候に属し、温暖で、自然条件に恵まれた地域となっております。

平成17年1月1日に佐賀関町、野津原町と合併して新大分市が発足して以来、水道施設の整備事業が進められ、平成31年3月31日の時点で、8浄水場を有し、10の水道水源から取水しております。

水質検査施設である水質管理室は古国府浄水場敷地内にあり、水道法第20条に規定する給水栓における定期及び臨時の水質検査のみならず、原水、浄水処理工程水、浄水など原水から給水栓に至るまで水道システム全体の水質管理を一元化して行うことにより、安全な水道水の供給に万全を期しております。

本水道水質管理年報は、平成30年度水質検査計画に基づき実施した各種水質検査結果を取りまとめましたので、ご高覧を賜り、ご指導をいただければ幸いです。